

第 17 回全国高等学校情報教育研究会全国大会（愛知大会）参加報告

愛媛県立新居浜東高等学校 本田 知仁

1 大会主題 教科「情報」第 3 ステージ ～未来を拓く情報教育～

2 会場 愛知県立大学 長久手キャンパス

3 日程

(1) 8 月 3 日（土）1 日目

13:00～ 開会行事

13:35～ 基調講演

14:50～ 分科会

15:55～ ポスターセッション

(2) 8 月 4 日（日）2 日目

9:30～ 分科会

13:00～ ポスターセッション

14:10～ 講演

4 基調講演

「未来を拓く共創活動 ～次なる“空飛ぶクルマ”を生み出す人をどう育むか～」
有志団体 DreamOn 代表/慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント
研究科空飛ぶクルマ研究ラボ 特任助教 中村 翼

5 分科会

(1) 分科会 1

セッション 1	生徒の重要な関心ごとの「学習方法」をテーマにした問題解決 の授業 専修大学松戸高等学校 太田剛
セッション 2	生成 AI 研究校としての取り組み 東京都立小岩高等学校 棕本 哲也
セッション 3	教育用ドローンを使ったプログラミング (python) 教育の実践 について 和歌山県立紀州北工業高等学校 北山 浩司
セッション 4	「人間」と「機械」の関係性を探求する 日出学園中学校・高等学校 武善紀之
セッション 5	単元「情報社会の問題解決」における生成 AI を活用した授業 の実践 東京都立目黒高等学校 田中 啓太
セッション 6	SSDSE で PPDAC 東京都立立川高等学校 佐藤 義弘
セッション 7	情報 I で行ったネットワーク構築の授業実践 東京都立小平高等学校 小松一智

(2) 分科会 2

セッション 1	情報Ⅱ（文系選択）で取り組む問題解決 京都産業大学附属中学校・高等学校 森本 岳 石井 雅人
セッション 2	情報Ⅰから始まる、情報教育の現状と指導方法の模索 埼玉県高等学校情報教育研究会 泉田 駿
セッション 3	情報Ⅰにおける実データを活用した伝統的仮説検定の実践と 今後の展望 神奈川県立小田原高等学校 三井 栄慶
セッション 4	プログラミング教育における教材と授業方法の違いが学習成 果に与える影響の比較分析 山梨大学 稲垣 俊介
セッション 5	防災教育 VR コンテンツの改善を検討する授業実践 広島大学附属福山中・高等学校 平田 篤史
セッション 6	プログラミング教育における言語統一型と言語選択型での学 習効果の比較 愛知県立旭丘高等学校 井出 広康
セッション 7	「データの活用」における相関分析を対象とした複数校での授 業実践例 兵庫県立大学大学院/雲雀丘学園中学校・高等学校 林 宏樹 兵庫県立姫路東高等学校 戎原 進一 電気通信大学 渡辺 博芳

(3) 分科会 3

セッション 1	Python と共通テスト用プログラム表記を併用したプログラミ ング授業 普連土学園中学校・高等学校 渥見 友章
セッション 2	応用的なデータベース学習として SQL の知識を活かした身近 なデータを扱う取り組み 樟蔭中学校・高等学校 川浪 隆之 高田 真理
セッション 3	観点別評価をどのように行っているか 鹿児島県立鶴丸高等学校 春日井 優
セッション 4	紙飛行機制作から始める問題解決・情報デザイン・データ活用 の授業 アサンプション国際高等学校 岡本 弘之
セッション 5	生徒自身のペースで進めるプログラミングによるシミュレー ションの実践と検討 神奈川県立横浜国際高等学校 鎌田 高德
セッション 6	専門学科情報科におけるアクティブラーニングを取り入れた 情報セキュリティ教育

	米子工業高等専門学校 森山 凜 若林 遥大 川戸 聡也 鳥取県立鳥取湖陵高等学校 小谷 敦也
セッション 7	生成 AI を活用したプログラミング教育の実践 東京学芸大学附属高等学校 飯田 秀延

6 講演

「デジタル化が進む中で情報科の授業実践へ期待すること」

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

(併) 文部科学省初等中等教育局 学校情報基盤・教材課/教育課程情報教育振興室
教科調査官

(併) 参事官 (高等学校担当) 付産業教育振興室教科調査官

田崎 丈晴

7 概要

初日の基調講演では、①自分の想いと対峙する。②思考から学びを得る。③外に対して発信する。という3点についての話であった。①では、どんなアイデアでも良いのでたくさん出して、そこから本当に自分がやりたいことは何なのかを考えて選ぶこと。②では、自分の想いがあるならばコンテストなどに応募しアクションしてみる。③では、周りに発信することで仲間を見つけ自分の想いを実現するために実社会との接点をもつこと。これらの経験により、これからの時代を生きていく力を養うことができるという内容であった。

分科会では、各セッションで3つの分科会から一つ選んで発表会に参加した。今年度は、「生成 AI」や「プログラミング」への参加者が多かったが、新指導要領が実施されて3年目ということで、基本的な活用というよりも、応用的な活用法についての内容が目立った。初めて知ったソフトウェアや指導方法など非常に参考になった。また、「教科横断型の授業」や「高等専門学校との連携」など他教科や学校種と連携をされている発表も多かった。

二日目の講演は、生徒が「問題解決」できるような教育が求められるという話であった。そのためにも、「活用の視点でのプログラミング」「問題解決の流れの中での情報デザイン」などが必要であるとのことであった。また、「情報で学んだ素養はこれからの社会で絶対に必要になる。」「今後の教育 DX の更なる進化が問われる。」ということも話されていた。